

## 八丈島放牧可能地調査

- 1 調査日時 2018年1月11日(木)～12(金)
- 2 調査場所 八丈島(ゆ～ゆ～牧場、八丈富士牧野ほか)
- 3 調査者 千葉委員、原田委員、事務局(高岡、秋本、三好)
- 4 先方関係者  
八丈島乳業 代表取締役 歌川真哉氏  
八丈島乳業 専務取締役 魚谷孝之氏  
八丈島乳業 ゆ～ゆ～牧場長 小宮山建氏  
富士牧野運営審議会会長 沖山宗春氏  
八丈島産業観光課長 沖山昇氏

## 5 概要

### (1) 子牛の育成状況調査

「シェフ牛」の子牛は、ジャージー子牛2頭を八丈島乳業の附属牧場「ゆ～ゆ～牧場」に預託している。うち1頭は疾病で急死した子牛の代替牛であり、1頭は事業確定前の〇年〇月生まれの子牛(14か月齢)で、健康そうに育てっており、育成期の飼料の食い込みも上々とのことで、生体重は約320kgとのことだった。

預託子牛がいる「ゆ～ゆ～牧場」は「旧牧場」でジャージー雌子牛の育成用に使用されている。搾乳施設がある海岸の「本場」とは車で5分ほどの距離にある。火山性の礫が多い、一見して植生は薄い、奥の方に広がっている放牧地の草生は、本場より良いとのことだった。ただ、冬場は放牧地の草が不足するので、購入乾草(チモシー)、八丈スキなどを補給している。

### (2) 肥育放牧の可能地調査

八丈島については、可能な限り「周年放牧」スタイルをとる計画なので、1年を通じた放牧地の確保する必要がある。その場合の候補として、①「ゆ〜ゆ〜牧場」、②八丈富士牧野の遊休地、があげられる。今回は両者を調査し、放牧肥育の可能性を考察した。

① まず、「ゆ〜ゆ〜牧場」については、旧牧場と新牧場があるが、旧牧場は育成牛の放牧には向いていても、全体的な放牧地の牧養力の低さ、監視のしにくさから、肥育牧場としては除外した方が良いと考える。

「新牧場」については、夏季や冬季の放牧草が不足する時期に、八丈スキ等の粗飼料補給がしやすいこと、搾乳牛群と同じ形で放牧することにより、搾乳牛群と同レベルの乾物摂取量を確保できると思われること、などから、2頭のジャージー牛の放牧利用は可能と思われる。現在の放牧地の隣接地を放牧地として延伸利用できる可能性があるが（現在の放牧面積4.5畝→15畝に拡大可能とのこと）、調査時点では具体的な計画は進んでいない。

② 「八丈富士牧野」は現在、島内の農家等から肉用牛（黒毛和種）の預託放牧と町有牛の放牧（15頭程度）を実施している。「牧野」全体では450畝、うち造成草地90畝あるが、放牧頭数の減少や牧野管理業務の縮小に伴い、バラ線や水飲み場の損傷等による利用不可能な放牧地も増加し、現在、実際に利用可能な放牧地はかなり減少している。また、利用している放牧地でもアジサイなどの灌木の繁茂、牧草の弱体化等により牧養力の低下が著しい。このため、仮に、八丈富士牧野を使用する場合は、「牧野審議会」の了解を得るとともに、一部放牧地のバラ線補修（ソーラー電気牧柵への置き換えも可）、灌木の伐採・除去、水飲み施設の補改修、八丈スキ等の補助粗飼料給与のために草架等の整備が必要となる。

また、管理的にも、現在の八丈富士牧野を管理している町職員（とアルバイト）だけで、頭数は少ないもののジャージー牛の肥育放牧管理が可能か、検討を要する。

なお、牧野組合の方でも来年度に向け、運営審議会で新たな放牧計画を作成することとしており、ジャージー牛の預託が可能か検討していただくよう要請した。

### (3) 自給飼料の生産可能性調査

八丈島の放牧地の草生は、冬季の乾燥、夏季の高温等のため、通年の維持が難しい面がある。このため、牧草（イタリアンライグラス等）、野草（八丈ススキ等）を補助飼料として利用可能か、調査した。

既に「ゆ～ゆ～牧場」は遊休地を借りて、イタリアンライグラスを作付けするとともに、当該圃場を囲む防風林の脇で八丈ススキを植え付けするなどの自給飼料確保対策を試験的に始めていた。その状況をみたところ、イタリアンライグラスは出穂までまたずに刈り取りをしているため、再生状況が弱く、やや草丈が低いように思えた。また、圃場内の草生にもばらつきがみられた。今後、堆肥等の投入により土壌改善が進めば、イタリアンライグラスは有用な牧草になると思うが、栽培面積の拡大と出穂以降の一斉刈り取り、貯蔵（サイレージ等）の機械化による安定した生産体系の構築が望まれる。他の牧草としては暖地型の「トランスバーラ」などの導入も試験的に進めてみてはどうか。

八丈ススキについては、昔から八丈島に自生する野草で、牛の嗜好性も高いようだが、青刈りによる毎日給与体系となっているため、飼養頭数の増加に対応することが困難であり、また牧場から遠隔地には栽培しにくいいため、その作付け利用には限度がある。当面、イタリアンライグラス等の牧草の作付け拡大を図るとともに、八丈ススキの副次的な利用を進めることが望ましい。

なお、八丈島空港周辺の野草利用は可能だが、面積は限られるため、大区画での牧草栽培が可能な遊休地等の確保も望まれるところ。

(写真1)

「ゆ〜ゆ〜牧場(旧)」に預託しているジャージー育成牛

放牧地を背景にした「えさ場」で、八丈ススキを給与していた。



(写真2)

「ゆ〜ゆ〜牧場預(旧)」に預託しているジャージー育成牛(右端)。左は雌子牛。



(写真3)

「ゆ〜ゆ〜牧場(新)」の放牧地。冬期間の草生は悪く、放牧だけの周年放牧は困難。イタリアンライグラスや八丈ススキの補給は必須と思われる。



(写真4)

「ゆ〜ゆ〜牧場(新)」の搾乳牛。去勢肥育牛についてもこれらの搾乳牛と同じように



(写真5)

「八丈富士牧野」の「ふれあい牧場」。絶景ゆえに観光客も多く、八丈富士牧野のメイン牧区がある場所(管理センターもある)。観光用ということもあり、牛の放牧頭数が最も多い牧区となっているため、草生は乏しく濃厚飼料等も給与している。



(写真6)

同上。1頭だけジャージー種が放牧されているが、「ふれあい牧場」のマスコットの存在のジャ



一ジ雌牛。未経産で7歳超と言われている。

(写真7)

「八丈富士牧野」のうち西側にある「遊平(あそびだいら)牧区」。20<sup>㍻</sup>の造成草地を有するが、灌木の繁茂等により利用率は低く、この日も3頭の黒毛和



種が放牧されていたのみ。八丈小島を臨む景勝地なので、もったいない。

(写真8)

「ゆ〜ゆ〜牧場」が試験的に栽培しているイタリアンライグラス。既に刈り取りしたため、草丈は低い。1枚1枚の畑は区画が小さいので、整理したいところだが、防風林の撤去は難しいところ。

(写真9)

八丈ススキ。これは防風林に沿って作付けしたもの。3年目くらいから利用可能になるが、穂が残ると固くなり

嗜好性は落ちるとのこと。

